

# 盛岡劇場開場百年。

— 芸術文化の拠点としてこれからも —

盛岡の芸術文化を育てた盛岡劇場は大正2年9月に開館し、今年で100周年を迎えます。9月23日の記念式典では、盛岡劇場のこけら落として松本幸四郎と盛岡芸妓が披露した「花舞台千代顔見」を上演予定。記念すべき舞台に向けた思いを、盛岡芸妓のお姐さん方に伺いました。



初代盛岡劇場の思い出を語ってくれた盛岡芸妓のお姐さん方。左からよう子姐さん、治子姐さん、てる子姐さん

## 冊子発見がきっかけ

今年で開場百周年を迎える盛岡劇場。9月23日に行われる記念式典では、盛岡芸妓7人が百年前の開場時に演じた「花舞台千代顔見」(はなぶたいいちよのかおみせ)を平成版としてお披露目するのです。そのきっかけとなったのは、今年3月に市内の民家で偶然発見された「花舞台千代顔見」の歌詞を記した冊子でした。「何か記念になる演目かと思っていたところ、『花舞台千代顔見』の冊子が見つかった話を聞いて、これはやるしかないと思いました」とてる子姐さん。「花舞台千代顔見」は、盛岡劇場



初代盛岡劇場のデザインを踏襲して造られた現在の盛岡劇場

の舞台開きに当たって招かれた七代目松本幸四郎が、盛岡芸妓と共に披露した祝儀唄です。振付は松本幸四郎、歌詞は橋不染、曲は二代目常磐津文字兵衛による貴重なもの。しかし、当時は口承で受け継がれるのが一般的であり、曲や振付けを正式に記録したものは残っていません。初代盛岡劇場が解体される前に、二代目若柳力代さんが覚えていた三味線で踊った記憶があるお姐さんもいるようですが、それはほんの一部分だけ。曲や踊りの全体を知る術がないため、百年前の祝儀唄を復活させるにあたって、新たに作曲と振付をする必要がありました。

## 新しい振付と踊り

「平成版花舞台千代顔見」は、人間国宝・常磐津英寿師が作曲、日本舞踊若柳流四代目家元・若柳壽延師が振付。百年の時を重ねた現在を歌詞や振付にも加えて新たなものに仕上がっています。7月23日に行われた公開稽古には両師匠が同席。それぞれ多忙なスケジュールの中で来盛しているため、同じ日に稽古ができるのはめったにないことだとか。今年になって本が見つかったことも奇跡的。師匠が揃った形でお稽古できたのも奇跡的。諸先輩をはじめ開館当時の盛岡芸妓を盛り立てた皆さんが、空の上から取りはからってくれたようだとお姐さん方は話します。「すばらしいことだっす。ちよう



7月に行われた公開稽古の様子。常磐津師匠、若柳師匠直々の稽古に芸妓の皆さんも気合い十分で取り組みます



完成した当時の初代盛岡劇場正面

典型的な歌舞伎劇場でした。2階  
 棧敷席の最前部をのぞきマス席とな  
 っており、舞台と客席が一体感を感じ  
 る750席というスケールが特徴。  
 東京駅や旧岩手銀行中ノ橋支店の設  
 計で知られる葛西萬司の設計です。

初代盛岡劇場は、盛岡芸妓のお姐  
 さん方にとっても初舞台を踏んだ思  
 い出深い場所。まだ幼い頃だったに  
 も関わらず、その印象は今も脳裏に  
 焼きついているといえます。

「3階建ての劇場なんて当時は大  
 したもの。今でも時々夢に見るのよ」  
 「大きな柱、りっぱな花道もあって  
 いい劇場だった」と、お姐さん方は  
 話します。

**盛岡劇場の変遷**  
 大正2年に造られた初代盛岡劇場  
 は、帝国劇場を手本にしたもので3  
 階建ての西洋風近代建築。外観が洋  
 風建築ながらも劇場内は廻り舞台や  
 本花道、仮花道、大臣囲いなどを持

能や演劇等に深い関心を寄せる人々  
 の意欲的な姿勢によって誕生したの  
 が盛岡劇場でした。

昭和32年には谷村文化センターと  
 して再建。歌舞伎、演劇、映画、音  
 楽など幅広い芸術活動が行われまし  
 たが、老朽化に伴って昭和58年にや  
 むなく解体されます。しかし、市民  
 のあいだで盛岡劇場復活の気運が高  
 まり、盛岡市は市制百周年記念事業  
 の一つとして劇場再建を決定。平成  
 2年6月に「盛岡市河南公民館・盛  
 岡劇場」として新たな一歩を踏み出  
 したのです。平成7年に復活した  
 「盛岡文士劇」は今や盛岡を代表す  
 る演劇として定着。時代の変遷に伴  
 って建物や運営形式が変わっても、  
 盛岡に生まれ育った芸術文化はしっ  
 かりと今に受け継がれています。

**百年先に残すもの**

記念式典に先駆けて、盛岡劇場館  
 内では初代盛岡劇場ゆかりのものを  
 展示する予定です。

「かつて上映した映  
 画のチラシや、初代劇  
 場で使われた煙草盆な  
 ど市内を巡って集めま  
 した。これからの盛岡  
 劇場を運営していく立  
 場として、これまでの  
 歴史を知って出来る限  
 りの知識を持って百周  
 年に臨みたいと思いま  
 す」と盛岡劇場館長の



8月27日から、旧盛岡劇場で使われたものを盛岡劇場館内に展示しています。写真①は暖を取る手あぶり。写真②は下足札。裏側に芸妓さんや料亭名が記されています

千葉芳幸さん。モノを集めるだけで  
 なく、地域の人々を訪ねて昔の話を  
 聞くうちに、盛岡の経済を支えた人、  
 本街芸妓と幡街芸妓の成り立ちの違  
 いなど、盛岡という街の根底に息づ  
 く文化思想の手がかりが見えてくる  
 と話します。



盛岡劇場館長・千葉芳幸さん

盛岡劇場百年の節目となる今年、  
 新たに「平成版花舞台千代顔見」が  
 できあがりました。それによって後  
 の百年に伝えていく盛岡の文化が一  
 つ増えたといえるのではないでしょ  
 うか。

取材／「SANS A」企画編集委員会